

## 会 議 録

会議の名称	第5回（仮称）第二次小牧市企業新展開支援プログラム策定検討委員会					
開催日時	令和4年1月11日（火） 午前10時～午前11時					
開催場所	小牧新産業振興センター セミナールーム					
出席者及び欠席者	<p><b>【委員】</b></p> <p>○出席者</p> <p>清水真 （中部大学 経営情報学部 教授）</p> <p>鈴木義久 （東春信用金庫 理事長）</p> <p>長谷川雅彦（株式会社ベルカンパニー 代表取締役）</p> <p>秦野利基 （株式会社竹藤商店 代表取締役）</p> <p>中村公彦 （株式会社大京化学 代表取締役）</p> <p>藤本康之 （株式会社光製作所 小牧工場長）</p> <p>坪井和巳 （小牧商工会議所 専務理事）</p> <p>辻中正直 （こまき新産業振興センター長）</p> <p>小林直浩 （地域活性化営業部長）</p> <p>○欠席者</p> <p>無し</p> <p>○事務局</p> <p>竹内隆正（地域活性化営業部次長）</p> <p>久田雅樹（商工振興課長）</p> <p>宮本智成（商工振興課 新産業創出係長）</p> <p>関戸一憲（商工振興課 新産業創出係 主事）</p> <p>片岡伸輔（（株）国際開発コンサルタンツ）</p> <p>大山 曜（（株）国際開発コンサルタンツ）</p>					
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否	傍聴定員	3名	傍聴人数	0名
次 第	<p>1 小牧市企業新展開支援プログラムの改訂について</p> <p>2 現プログラムの検証について</p> <p>3 事業者アンケートの実施について</p> <p>4 その他</p>					
配付資料	<p>資料1 （仮称）第二次小牧市企業新展開支援プログラム 策定スケジュール概要</p> <p>資料2 現プログラムにおける戦略の検証</p> <p>資料3 産業振興の展開方向（策定中断前の検討資料）</p> <p>資料4 WITH コロナ企業支援の取組（令和3年3月策定）</p> <p>資料5 新型コロナウイルス感染症対策事業における補助金申請状況</p> <p>資料6 事業者アンケート案</p> <p>参考1 （仮称）第二次小牧市企業新展開支援プログラム策定委員会委員名簿</p> <p>参考2 （仮称）第二次小牧市企業新展開支援プログラム策定検討委員会設置要綱</p>					

## 会 議 内 容

## 【事務局】

本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今より、第5回（仮称）第二次小牧市企業新展開支援プログラム策定検討委員会を始めさせていただきます。本会議は公開としており、傍聴人数は0人です。

本日の進行は、冒頭の部分のみ、事務局の商工振興課の久田が務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

はじめに本策定検討委員会について、前回の開催より若干期間が空いておりますので、改めて説明させていただきます。

本策定検討委員会は、（仮称）第二次小牧市企業新展開支援プログラム策定にあたり、プログラムの素案の作成のための調査及び検討を行うことを目的として開催するものであり、令和元年度の設置以降、これまでに4回開催しております。

また、委員構成についても説明させていただきますので、恐れ入りますが、お手元の配付資料のうち参考1の委員名簿をご覧ください。

本策定検討委員会は、学識経験者、金融機関の代表、小牧商工会議所の代表、市内事業者の代表、こまき新産業振興センター長の皆様のほか市職員を含めて構成されております。中部大学教授の清水様には、引き続き本策定委員会の委員長を務めていただくこととなりますので、清水様、よろしく願いいたします。

また、株式会社ベルカンパニー代表取締役の長谷川様、東春信用金庫理事長の鈴木様、小牧商工会議所専務理事の坪井様、株式会社竹藤商店代表取締役の秦野様、株式会社大京化学代表取締役の中村様におかれましても、引き続き、委員としてご参加をお願いいたします。

また、今回第5回より、新たに市内事業者の次世代成長産業分野の代表として、株式会社光製作所 小牧工場長の藤本様に委員就任を依頼させていただきます。

なお、こまき新産業振興センター長につきましては、この間、前任者の尾関様より辻中様へ交代しておりますので、今回より辻中様よろしく願いいたします。

最後に、前回の第4回までは市職員として市長公室長が委員に入っておりましたが、本プログラムの検討と同時期に進めておりました「小牧市まちづくり推進計画」の策定が令和元年度に完了したことに伴い、今回より市長公室長は委員を外れておりますので、よろしく願いいたします。

以上、簡単ではございますが、本策定検討委員会の説明とさせていただきますので、委員の皆様どうぞよろしく願いいたします。

それでは、(仮称)第二次小牧市企業新展開支援プログラム策定検討委員会設置要綱により、以後の議事の取り回しについては、清水委員長にお願いいたします。

### 【委員長】

はい、それでは早速、議事に入りたいと思います。

本日の議題については、

- (1) 小牧市企業新展開支援プログラムの改訂について
- (2) 現プログラムの検証について
- (3) 事業者アンケートの実施について
- (4) その他

であります。いずれも重要な議題ですので、慎重にご審議いただきますよう、よろしく申し上げます。

それでは、議題(1)に入ります。

(1) 小牧市企業新展開支援プログラムの改訂について、事務局より説明を求めます。

## 1 小牧市企業新展開支援プログラムの改訂について

### 【事務局】

それでは、(1) 小牧市企業新展開支援プログラムの改訂について、説明させていただきます。

まず、現在の小牧市企業新展開支援プログラムの計画期間は、当初、平成26年度から平成30年度まででしたが、市の最上位計画であるまちづくり推進計画の基本施策の体系を踏まえて策定するために令和2年度まで2年間延伸することとしました。

その後、令和元年6月に本策定検討委員会を設置するとともに、(株)国際開発コンサルタンツと委託契約を締結し、本市の産業構造の把握や課題整理、事業者アンケートを実施し、それらの結果について、本策定検討委員会でご審議いただきながら、策定作業を進めてまいりました。

しかしながら、令和2年以降、新型コロナウイルス感染症により、社会経済状況が大きく変化し多くの事業者が多大な影響を受ける中、今後の本市の産業振興施策のあり方についても事業者のニーズ等を含め先行きを見通すことが一層困難になりました。

このため、策定検討委員会の外部委員の皆様へアンケートを実施しプログラム策定の進め方について意見を伺ったところ、策定中のプログラムが新型コロナウイルスの影響を考慮できていないため、今までの議論を一旦中断して、コロナによる経済の影響を注視しながらwithコロナ版プログラムを策定するのが望ましいとの趣旨の意見が多かったことか

ら、新プログラムの策定作業をいったん中断し、現行のプログラムを令和4年3月までさらに延伸するとともに、令和3年3月に「withコロナ版企業支援の取組」を策定しコロナ禍での新たな事業実施や見直しを行ってきたものであります。

今回、改めて新プログラムを策定する目的及びスケジュール等については、資料1（仮称）第2次小牧市企業新展開支援プログラム 策定スケジュール概要をご覧ください。

策定目的は、「新型コロナウイルス感染症の拡大が幅広い業種で企業経営に大きな影響を与え、地域経済を取り巻く環境が大きく変化していく中、アフターコロナを見据えた様々な産業振興施策を推進し、さらなる地域経済の活性化を図るため「（仮称）第二次小牧市企業新展開支援プログラム」を策定する。」としております。

なお、現プログラムが主に製造業を対象として体系や具体的な取組を定めたものであるのに対し、新たなプログラムでは、プレミアム商品券等も念頭に商業も位置付けて策定を検討していく予定です。

また、策定スケジュールについては、令和3年度秋から準備を開始し、指名競争入札により選定された㈱国際開発コンサルタントと委託契約を締結し、約1年間かけて策定してまいります。

また、その間、外部有識者等による本策定検討委員会を本日含めて4回程度開催し、ご意見等を伺いながら策定を進めてまいります。

本日第5回目の策定検討委員会の終了後、事業者アンケートを実施する予定であります。

その後、第6回目でアンケート結果と新プログラムの体系案、第7回目で体系に繋がる具体的取組、第8回目で新プログラムの全体案とパブリックコメントについてご意見等を伺う予定であります。

以上で議題（1）の説明を終わります。

### 【委員長】

説明は終わりました。ご質問、ご意見はありませんか。

議題（1）について意見は無いようですので、次の議題に入ります。

## 2 現プログラムの検証について

### 【事務局】

それでは、（2）現プログラムの検証について、説明させていただきます。

資料2「現プログラムにおける戦略の検証」をご覧ください。

こちらの資料は、1ページは現プログラムの構成と評価のあり方を記載しております。

現プログラムでは、産業振興の基本理念として、「持続して発展を続ける小牧市の産業・経済の確立」としており、3つの戦略とそれに従う展開方向を基本として、様々な施策を展開しております。

まず戦略1「経営安定化支援戦略」として、展開方向①「工業都市小牧を支える市内企業の操業環境の改善」、展開方向②「企業の人材確保と様々な働き手の就労の支援」を設定しております。

次に戦略2「産業集積強化戦略」として、展開方向①「航空宇宙産業の集積強化」、展開方向②「恵まれた広域交通インフラを活かした企業誘致・工業用地の確保」を設定しております。

最後に戦略3「企業チャレンジ支援戦略」として、展開方向①「次世代成長産業をはじめとする新たな取組みへの企業チャレンジのサポート」、展開方向②「未来の小牧を支える人づくり」を設定しております。

現プログラムにはKPI（重要業績評価指標）は設定しておりませんが、何らかの外部成果指標を用いて評価していくこととしております。

続きまして2ページです。

2ページ目では、1ページで示しました各戦略と展開方向に関する評価指標の設定を記載しております。

まず、戦略1「経営安定化支援戦略」のうち、操業環境に関しては、「資本金5,000万円以下の企業の廃業率」及び「従業員数99人以下の企業の1人当たり製造品出荷額等」を評価項目としております。また、人材確保、育成に関しては、「従業員数99人以下の企業の1人当たり付加価値額」としております。

次に戦略2「産業集積強化戦略」のうち、強化対象産業（航空宇宙等）に関しては、「航空宇宙に関連が深い製造業4分野の製造品出荷額等」及び「航空宇宙に関連が深い製造業4分野の付加価値額」としております。また、企業誘致推進に関しては、「工業用地面積の増減」としております。

最後に戦略3「企業チャレンジ支援戦略」のうち、企業チャレンジサポートに関しては、「L学術研究、専門・技術サービス業及びP医療、福祉の従業員数」及び「L学術研究、専門・技術サービス業及びP医療、福祉の従業員数当り売上金額の平均」としております。また、未来の人づくりに関しては、「資本金1,000万円以下の企業の新設率」としております。

続きまして、3ページでは戦略個別の評価として、各評価項目の実績値や分析を示しております。

こちらは各評価項目について、目指す方向性を矢印で示し、それぞれ従前と従後で評価し分析を記載しております。

まず、戦略1「経営安定化支援戦略」に関しましては、3つの評価項目が全て「○」となっており、特に付加価値額の上昇が大きく、企業の経営が安定しており従業者の人材の成長も大きいのではないかと分析しております。

次に、戦略2「産業集積強化戦略」に関しましては、3つの評価項目が「×」又は「△」となっており、特に航空宇宙関連産業については、全国的な航空産業の停滞の影響が大きかったと分析しております。

また、工業用地面積については、増加しておりますが、需要に応じた用地の供給は十分でなかったと分析しております。

最後に、戦略3「企業チャレンジ支援戦略」に関しましては、3つの評価項目が全て「○」となっており、評価項目となった従業者数や産業規模は拡大し、企業の新設率も増加したことから創業・起業が増加傾向にあったと分析しております。

最後に4ページは評価のまとめとなっております。

最初の段落では経営安定化支援戦略について、2段落目、3段落目については産業集積強化戦略について、4段落目については、企業チャレンジ支援戦略についてそれぞれまとめを記載しております。

こちらの資料2につきましては、本策定検討委員会第2回の資料として既に提示させていただいたものと同じですが、一部、3ページで最新の実績値が把握できたものは、その数値に時点修正しております。

また、4ページの1行空けた後の最後の段落、「なお」以降については、今回、新型コロナウイルス感染症の影響や今後想定される産業施策の方向性の概要として、新たに追記したものであります。

この部分のみ読み上げますと、「なお、新型コロナウイルス感染症の影響が大きくなった令和2年度は、飲食業、観光業をはじめ多くの事業者が多大な影響を受けています。本プログラムの評価項目(P.3)では大きな落ち込みは見られませんが、産業集積強化戦略の「航空宇宙に関連が深い製造業4分野の付加価値額」では令和2年度に測定した令和元年度実績が平成30年度より下落するなど、今後も本市の産業に影響が出る可能性があります。

今後の取組では、企業の立ち直りや発展のため経営安定化、生産性向上に関する支援が一層必要となるとともに、次世代成長産業への支援、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えたデジタル化やDX、脱炭素等の取組への支援も必要になる可能性があると考えられます。」と記載しております。

資料2についての説明は以上です。

続きまして、資料3「産業振興の展開方向」をご覧ください。

こちらの資料も、本策定検討委員会第4回の資料で新たなプログラムの体系案として既に提示させていただいたものと同じであり、産業振興の基本理念を置き、戦略を4つ、それに紐づく基本方針と具体的な取組みを設定したものです。

今回の策定にあたっては、こちらの体系を土台として、事業者アンケート結果等もふまえて、アフターコロナを見据えた体系に見直していく検討を行っていく予定であります。

続きまして、資料4「WITHコロナ企業支援の取組」をご覧ください。

こちらの資料は、中断前の本策定検討委員会で、現プログラムの再延伸とあわせて、コロナによる経済の影響を注視しながらwithコロナ版プログラムを策定するのが望ましいとの趣旨のご意見を受けて、「withコロナ版企業支援の取組」として令和3年3月に策定したものであり、策定検討委員会委員の皆様へも送付させていただいたものであります。

2ページ目以降から、令和2年度に実施した新型コロナウイルス感染症対策として具体的な補助制度や経済対策などを記載しており、4ページ目以降からは、今後の新型コロナウイルス感染症対策として、令和3年度の取組を記載したものであります。

現在は、現プログラムとこの「withコロナ版企業支援の取組」により、施策を推進しているところであります。

最後に資料5「新型コロナウイルス感染症対策事業における補助金申請状況」をご覧ください。

こちらの資料は、「withコロナ版企業支援の取組」の5ページで新設した補助金の申請状況です。補助制度の内容としては、「新しい働き方応援補助金」は、テレワークにかかるソフトウェアの導入費。「非対面型販路開拓支援補助金」は、ECサイトやHPの製作費等を補助する内容となっております。それぞれの現時点での実績等を記載しております。

以上で、議題(2)の説明を終わります。

### 【委員長】

説明は終わりました。ご質問、ご意見はありませんか。

議題(2)について意見は無いようですので、次の議題に入ります。

## 3 事業者アンケートの実施について

**【事務局】**

それでは、(3) 事業者アンケートの実施について、説明させていただきます。

資料6「事業者アンケート案」アフターコロナを見据えた経営に関する事業者アンケート((仮称)小牧市企業新展開支援プログラムの改訂に向けた事業者アンケート)をご覧ください。

こちらの内容については、先ほどの資料3「産業振興の展開方向」を土台として、新たにアフターコロナを見据えたキーワードとして、デジタル化やDX、脱炭素や省エネ、SDGs、次世代成長産業等を念頭に、市内事業者の現状や課題認識等をお聞きする内容としております。

それでは、簡単に各項目を説明させていただきます。

まず1ページ目から、項目1として「貴社の状況について」です。

問1は貴社の業種について、ご回答くださいとしております。

問2では、問1で4(製造業)を選択された方へ、その中分類をお聞きしております。

問3は問1で5(運輸業、郵便業)を選択された方へその機能をお聞きしております。

問4は資本金をお聞きしております。

問5は従業員数をお聞きしております。

問6は業歴をお聞きしております。

問7は経営者(代表者)の年齢をお聞きしております。

問8は直近の売上高について、令和元年(コロナ前)と比較して該当するものをお聞きしております。

問9は直近の経常利益について、令和元年(コロナ前)と比較して該当するものをお聞きしております。

問10は現在の売上全体に占める固定客(既存の取引先)について、令和元年と比較してお聞きしております。

問11は新規顧客について、令和元年と比較してお聞きしております。

問12は今後の事業の方向性について、新たな分野へ進出、既存事業の拡大や縮小等をお聞きしております。

2つ目の項目として、経営の効率化について設定しております。

こちらは、少子化による働き手の減少や新型コロナウイルスの影響により、デジタル技術を用いた非対面ビジネスの重要性が高まっていると考えられます。ということで設定しております。

問13はデジタル化・DXについてお聞きしております。下の欄には、DX(デジタルトランスフォーメーション)の解説を入れております。

問14は問13で1から3を選択された方に該当する内容をお聞きしております。

問15は問14での取組の結果としてどうなったかお聞きしております。

問16は問13で3または4を選択された方へその理由をお聞きしております。

3つ目の項目として、企業に求められる新たな役割について設定しております。

こちらは、我が国は令和2年10月に、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しており、今後、企業・個人を問わず様々な経済活動に大きな影響が出てくると考えられます。としております。

問17では脱炭素、省エネに関する取組状況をお聞きしております。

問18は問17で1から3を選択された方へ、その取組内容をお聞きしております。

問19は脱炭素、省エネに取り組むにあたり行政に期待することをお聞きしております。

問20からはSDGsに関することをお聞きしております。小牧市は令和3年5月に、内閣府より尾張地域で初めて「SDGs未来都市」に選定されております。

問20はSDGsをどのくらい知っているかをお聞きしております。

問21は問20で1から3を選択された方へ、SDGsを意識した取り組みをしているかをお聞きしております。

問22は問21で1から3を選択された方へ、SDGsと位置付けて取り組んでいることをお聞きしております。

問23はSDGsを推進するにあたり、必要と思われる支援をお聞きしております。

問24は脱炭素、省エネ、SDGsへの取組の結果として該当する内容をお聞きしております。

続いて4番目の項目として、産業集積について設定しております。こちらは問1で製造業を選択された方のみにご回答をお願いしております。

問25は工場、研究開発施設、社屋等の増設、移転の可能性をお聞きしております。

問26は問25で1から3を選択された方へ、増設や移転を予定又は検討している理由をお聞きしております。

問27は問25で1から3を選択された方へ、増設や移転先の候補先をお聞きしております。

問28は問25で1から3を選択された方へ、その課題をお聞きしております。

問29は問25で1から3を選択された方へ、増設や移転にあたり、必要と思われる支援を3つお聞きしております。

問30は、航空宇宙産業、次世代成長産業に該当するものをお聞きしております。この設問のなかで、次世代成長産業は、次世代自動車、環境・新エネルギー、AI・ロボット、情報通信、健康長寿、その他事業者様が次世代成長産業と定義するものとしています。

問31は問30で1から4を選択された方へ、その具体的な関わり方をお聞きしております。

問32は問30で4から6を選択された方へ、関わっていない理由をお聞きしております。

問33は問30で5を選択された方へ、航空宇宙産業又は次世代成長産業への参入にあたり、行政に期待することをお聞きしております。

5つ目の項目は人材の確保についてです。

問34は人材の過不足感についてお聞きしております。

問35は新卒採用の状況についてお聞きしております。

問36は中途採用の状況についてお聞きしております。

問37は問35、問36で2または3を選択された方に、その要因をお聞きしております。

6つ目の項目は、市以外の公的支援についてです。

問38は国・県の補助金や助成金を利用又は利用を検討したものをお聞きしております。この設問の考え方は、市の補助金が国や県の補助金で対応できない部分を補うという考え方もございまして、こういったことをお聞きしております。

問39は小牧商工会議所中小企業相談所について、知っているかお聞きしております。

問40はこまき新産業振興センターの認知度についてお聞きしております。

問41は小牧新産業振興センターに期待する支援をお聞きしております。

問42は市の情報の入手方法についてお聞きしております。

問43はアフターコロナを見据えた経営で重要度が増した点について、その重要性をご回答くださいということで、既にお聞きしている分野もございしますが、もう一度全体的に並べて重要度をお聞きしております。その下は、その他のご意見、ご要望をお聞きしてございまして、差し支えなければ事業所名と回答者のお名前をご記載いただきたいと思います。アンケート内容については以上です。本アンケートは委託事業者である株式会社国際開発コンサルタンツより、市内事業者約6,000社のうち無作為抽出により3,000社を対象に送付する予定です。

本アンケートの分析に要する有効回答数は最低400社必要と考えて

おります。この数字を担保するために、今回はオンラインでの回答を追加して実施する予定です。参考までに前は1221社にアンケートを送付して、回答360社、回答率29.5%でした。今回は若干ボリュームのあるアンケートになっておりますが、そのようなことも考慮いたしまして、オンライン対応も見据えて実施していこうと思っております。なお、回収の経過をみながら礼状兼催促の案内をさせていただく予定です。以上です。

#### 【委員長】

説明は終わりました。ご質問、ご意見はありませんか。

#### 【辻中委員】

アンケートではアフターコロナと記載がありますが、それまでの資料はウィズコロナになっています。何か使い分けされているのですか。

#### 【事務局】

資料4については、新プログラムの策定がまだ難しいコロナ禍で策定した内容です。今回の新プログラムは、今後の新型コロナウイルス感染状況にもよりますが、1年後までに策定し、令和5年度あたりから始まることをイメージしまして、そのころまでには新型コロナウイルス感染症が落ち着く。もしくは、これを標準として経済活動が進んでいくだろうということで、あえてアフターとして今回のアンケートでは設定しております。

#### 【委員長】

他にご意見はありませんか。

#### 【秦野委員】

アンケートの内容についてですが、産業集積の項目については製造業のみ回答することになっていまして、問29まではわかりますが、問30から問33は、必ずしも製造業だけに当てはまるわけではないと思います。製造業以外にも情報通信や健康長寿の分野はサービスとして展開されている企業さんも多いです。ですので、そういった事業者にも答えていただけるようにすると良いのではないかと思います。

もう一つ、コロナ禍で売上が増している業界とそうでない業界とあると

思うのですが、問8、9で、可能ならばその理由は何と考えられているかを、選択肢か記述をしてもらおうと、その業界特有の色々なことが少しは見えるのではないかと思います。それに沿った施策に繋がればと思います。また、企業にとって継続、BCPという観点が非常に大切です。それは災害等もありますが、一番は後継者問題です。ここに非常に不安をお持ちの方が多くいますので、その辺りの状況をもう少し設問として盛り込まれると良いなと思います。

### 【事務局】

1つ目の、問30以降の対象事業者の業種については、もう一度事務局で検討させていただきます。2つ目の売上等の増減についての理由を問う設問の追加につきましては、ごもっともだと考えますので、設問内容の見直しをさせていただきたいと思います。最後にBCPにつきましては、色んなところでのご意見もお伺いしながら、全体のボリュームを加味して最終的な案を作成しまして、皆様にご確認させていただきたいと思っております。

### 【鈴木委員】

2点あります。最初に問1で業種についての設問がありますが、アンケート全体を見ますと、小牧は製造業の町ということで、産業とは言いながらも製造業に偏った設問が多いような気がします。とすると製造業は小牧市のなかで19%ぐらいだと思います。飲食業、生活関連、卸売り、小売り、となってくると全体の3分の2がこの業種に該当しますが、それらの業種に該当する設問が少ないような気がします。先ほど事務局の説明で商業も対象にしたプログラムを作成するという説明がありましたが、やはりそれらの業種を対象にした設問を増やしてほしいと思います。2点目に、アンケートの内容については良い内容と思いますが、いかに回収できるかにつきると思います。これだけのボリュームのアンケートを回答されるのは、ある程度の規模の製造業なら良いかと思いますが、飲食業や小売業の方が、これをきちんと最後まで回答していただけるかと思うと、気になるところです。オンライン対応という話もありましたが、どうすれば多くの回収ができるかということが課題だと思いますがいかがでしょうか。

**【事務局】**

製造業中心のアンケートにみえるというご意見や、飲食業、小売業等の視点だと回答率が心配というご意見につきましては、先ほど秦野委員からのご意見でもありましたように、設問の対象業種について、商業を対象にした設問等を考慮しながら、もう一度見直しをさせていただきたいと思います。あと、回収方法については、回収状況を確認しながら、新たな作業が必要であれば応じていきたいと考えております。

**【委員長】**

他にご意見はありませんか。

**【中村委員】**

アンケートの回答率についてですが、先ほど400社という説明がありました。何か根拠がありますか。

**【事務局】**

委託事業者である（株）国際開発コンサルタント様と調べさせていただきましたが、統計学上ですごく複雑な式で出ておりました。それに約6000社のうち3000社へ無作為で送付することを当てはめると400という数字が算出されます。もちろん事務局としては400以上を目指します。

**【中村委員】**

私も少し統計学を学んだことがあるのですが、回答者が偏った場合はどうですか。要するに回答者の業種や規模が分散していれば良いのですが、例えば、回答者が製造業などに偏ってしまった場合、正しいデータが取れないと思うのですが。

**【事務局】**

細かいところの最低母数というところまでは、まだ確認しきれていませんので、業種毎の回収率も考慮しながら、回収していきたいと思えます。

**【中村委員】**

精度を高めるために目的を持ってしっかり取り組まないと、本来の目的から逸脱してしまいますので、回収率の問題が出てこないようお願いしたいと思います。

**【委員長】**

基本的に規模が大きい会社に偏ってしまうのではないかという心配ですね。その辺り工夫のほうをお願いいたします。

**【事務局】**

わかりました。その辺りは考慮してやっていきたいと思います。

**【秦野委員】**

鈴木委員の意見にもありましたが、製造業や運輸業については細かくデータを取られるということですが、やはり卸売業や小売業などは市内でもかなり多いです。その方たちに問う設問は、この中で見ていくとあまり関係ないかなと思う内容が多いと感じます。そうすると、母数をどこで見るのかということで、6000社で見るのか、例えばそのうちの4000社の卸売業、小売業などに対して設問を用意して送るとか、製造業関連に対して設問を用意して送るなど、二刀流というか2つに分けて、基本的な設問は同じだけれども、一部は業種別の設問を用意するなど、そういった形があると良いと思います。

**【事務局】**

今までいただいたご意見を含めて、設問内容はもう一度持ち帰って考えさせていただければと思います。業種別に回答いただくような形式にできるかどうかにも検討させていただきます。

**【委員長】**

他にご意見はありませんか。

**【長谷川委員】**

アンケート資料を事前にいただいておりましたので、事業者の気持ちになって回答してみましたので、その感想をお伝えします。確かに設問数が多いことと、もしかしたら自分には関係ない設問もいくつかあるかなと思いつつながら、その中で、「今はどうですか」という問いかけと、「どうなりましたか」という問いかけと、「行政に何を求めますか」という問いかけと、大きく3つに分かれているのかと感じました。その中で「行政に何を求めますか」という問いかけがないのが2項目ありまして、そこは行政から意見を聞いてもらえなかった。という気持ちが残ります。

あとは、まだやっていないことに対して、「どうなりましたか」という問いかけがありますので、答えやすいように整理してもらえると良いかと思えます。

#### 【事務局】

今のご意見伺いまして、設問の整合性等は修正含めて検討させていただきます。

#### 【委員長】

他にご意見はありませんか。

#### 【鈴木委員】

アンケートの回収についての事業所の規模、従業員数等についてですが、6000というのは、市内の個人事業者を含めた数字ですよ。

#### 【事務局】

そうです。

#### 【鈴木委員】

そうしますと、我々、従業員10名以下の小規模事業者の専門金融機関として事業者と携わっている経験からすると、かなり質問の目線を下げた設問でないと回答が難しいということと、今一番そのような事業者が関心があることは事業継承です。どういう相談をしたら良いか、どういう準備をしたら良いか、という問い合わせが特に商業関係は多いです。アンケートには最後の設問に「事業承継」と入ってはおりますが、ここ

ではなくて、1つの設問として問いかけていただくと良いアンケートになると思います。

#### 【事務局】

先ほど、秦野委員からのご意見でありました、BCPに関連して設問として設定できるか検討させていただきます。普段、M&Aについての要望は金融機関様への問合せのなかで、かなり強くなっているのでしょうか。

#### 【鈴木委員】

M&Aよりは事業承継です。後継ぎの相談は相当ありますし、ある程度時間がかかる話が多いので、このような問題を抱えている事業者様は多いです。

#### 【事務局】

事業承継の部分は、問12の選択肢のなかで、今後の事業の方向性をお聞きしているなかで、「後継者に引き継ぐ」や「自分の代で会社（お店）を終える」を含めているのですが、もう少しこの裏側にある状況をお伺いできるような形でということですね。

#### 【鈴木委員】

そうですね。小牧の商業者の場合は、倒産ではなくて廃業という形が多いです。

#### 【坪井委員】

現状を踏まえて、アンケートを受け取った事業者様は、アフターコロナっていつからなのかよくわからないと思われるので、タイトルは「ウイズコロナ・アフターコロナ」に変更していただきたいと思います。

それから、行政への要望の記入欄が最後にあるのですが、特に飲食業等に対しては、市は商品券事業や食事券事業をやっていただいております。そのように具体的なことを記入いただくと回答しやすいかなと思います。最初に事務局からの説明で、次のプログラムには商品券を含めた商業支援も視野に入れていくということでしたので、このアンケートの

中にも少しいれていただけると良いかと思えます。

**【委員長】**

ありがとうございます。色んな分野に携わる方に出席いただいておりますので、すべての要望に対応しようとする膨大な量になりますので、その辺りは取捨選択しながら、検討いただければと思えます。

他にご意見はありませんか。

**【事務局】**

商品券事業や応援食事券事業への参加者へのアンケートは今年度実施しておりまして、そちらのアンケート結果も参考にしながら、取り組んでいく予定ではおりましたが、このアンケートのなかでも絡めてお聞きできることはないか、設問を検討していきたいと思えます。

**【委員長】**

ありがとうございます。あと、私のほうから形式的なところなのですが、問8から問10の選択肢の順番について、1大きく増加、2増加、3やや増加、4変わらない、5やや減少、6減少、7大きく減少としていただいたほうが、大きい方から小さい方という流れになりますので、良いかと思えますのでよろしく願います。

他に意見は無いようですので、次の議題に入ります。

#### 4 その他について

**【事務局】**

今後の予定ですが、アンケート（案）をもう一度作成しまして、委員皆様へメールで送信させていただきまして、またご意見をいただきたいと思っております。アンケート完成後は市内事業者へ送付し、回答期間を1か月程度とし、今年度中までを目途に結果の取りまとめを予定しております。以上です。

**【中村委員】**

その際は、どこが変更されたかを確認しやすいように、色付けなどわかりやすいように願います。

**【委員長】**

他には全体を通じてよろしいでしょうか。なければ、これで議事を終了し、事務局にお返しします。

**【事務局】**

長時間にわたりありがとうございました。

次回の本策定検討委員会の開催につきましては、また改めて委員の皆様へご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第5回（仮称）第二次小牧市企業新展開支援プログラム策定検討委員会を終了させていただきます。

ありがとうございました。